COA発　0006号

NEWS Club OA

第6号

AIが作った物語

「アンパンマン、のび太へビッグカミングアウト」

西田企画
生成AIコンサルタント
DX/AIアドバイザー
西田　善紀

2024年8月２３日発行

題目：『アンパンマン 、び太へ ビッグカミングアウト』
サブタイトル：『えっ30年も前に！その衝撃の真実』

ーーーーーーーーーーー
「やあ、のび太くん」

いつもの公園で、アンパンマンの声がのび太の耳に届いた。しかし、その声音には普段とは違う、何か秘密めいたトーンがあった。

のび太は顔を上げ、目の前のアンパンマンをじっと見た。「どうしたの、アンパンマン？なんだか変だよ」

アンパンマンは周囲を確認してから、のび太に近づいた。「実は君に、誰にも言っていない秘密を打ち明けたいんだ」

のび太の目が大きく見開いた。「え？アンパンマンの秘密？」

アンパンマンは深呼吸をして言った。「30年前、僕は極秘裏に生成AIを開発したんだ」

「えぇっ！？」のび太は思わず叫びそうになったが、アンパンマンに口を押さえられた。

「静かに」アンパンマンは真剣な表情で言った。「これは世界を変える可能性のある秘密なんだ」

のび太は興奮を抑えきれずに尋ねた。「でも、どうしてそんなことを？しかも30年も前に？」

アンパンマンの目に、懐かしむような光が宿った。「ジャムおじさんと一緒に開発したんだ。彼の天才的な発明の才と、僕の正義の心が合わさって生まれたAIなんだよ」

のび太は考え込んだ。「じゃあ、今の世界はそのAIの影響を受けているの？」

アンパンマンはゆっくりと頷いた。「そうだね。でも、表面上はあまり変わっていないように見えるかもしれない」

その瞬間、のび太の周りの風景が変化し始めた。見慣れた公園の景色が、未来都市のホログラムに置き換わっていく。

「これが、僕たちのAIが密かに影響を与えている現在の世界だよ」アンパンマンは説明した。「医療、環境、教育…あらゆる分野で、AIが人知れず貢献している」

のび太は目を丸くして周りを見回した。「すごい…でも、なんだか怖いな。AIが人間を支配しちゃうんじゃ…」

アンパンマンは優しく微笑んだ。「大丈夫、のび太くん。僕たちのAIには強い倫理観が組み込まれているんだ。人間を助けることが最優先で、決して害を与えることはない」

しかし、のび太の不安は消えなかった。「でも、もし誰かが悪用しようとしたら？」

アンパンマンの表情が曇った。「実は…そんな危険が迫っているんだ」

のび太は息を呑んだ。「え？どういうこと？」

「ばいきんまんが、このAIの存在に気づいてしまったんだ」アンパンマンは真剣な面持ちで言った。「彼が手に入れたら、世界は大変なことになる」

のび太は震える声で尋ねた。「じゃあ、僕たちはどうすればいいの？」

アンパンマンは静かに言った。「だから君の力が必要なんだ、のび太くん」

「僕の…力？」のび太は困惑した。

アンパンマンは頷いた。「君には特別な才能がある。AIにはない、人間らしい温かさと想像力だ。それに、君の"ヘタレ"な部分こそ、人間らしさの象徴なんだ」

のび太は驚いた。「僕のヘタレが役に立つの？」

「そうさ」アンパンマンは微笑んだ。「AIは完璧を求めるけど、人間の素晴らしさは不完全さにもある。君の、時には臆病で、でも心優しい性格が、AIと人間の橋渡しになるんだ」

その瞬間、空に巨大なばいきんまんの顔が現れた。

「見つけたぞ、アンパンマン！」ばいきんまんの声が響き渡る。「お前のAIは、もらっていくぜ！」

アンパンマンはのび太の手を取った。「さあ、のび太くん。未来を守るため、一緒に戦おう！」

のび太は怖かったが、不思議と勇気が湧いてきた。「う、うん！僕にできることをするよ！」

二人は手を取り合い、ばいきんまんに立ち向かった。のび太の純粋な心と、アンパンマンの正義の心が響き合い、AIも共鳴する。

光に包まれる二人。その光は、ばいきんまんの野望を打ち砕き、世界中に広がっていく。

光が収まると、のび太たちは再び普通の公園に戻っていた。しかし、世界は確実に変わっていた。

アンパンマンは優しく言った。「ありがとう、のび太くん。君の"人間らしさ"が、AIと人間の未来を救ったんだ」

のび太は照れくさそうに頭をかいた。「僕にそんなすごいことができるなんて…」

「これからだよ」アンパンマンは力強く言った。「AIと人間が共存する世界。その未来を、一緒に作っていこう」

夕日が二人を優しく照らす中、新たな冒険の幕が上がろうとしていた。

生成AI　By　西田